

金正琳氏講演会

「モンゴル語の外来語における音韻構造の探究」

2019年12月18日（水曜日）16:20-17:50

立命館大学衣笠キャンパス創思館 403

言語教育情報研究科の科目「言語情報学講義 05」（秋 Semester 水曜 5 限）の時間を使って標記の講演会を行います。金正琳氏は言語教育情報研究科の修了生で、現在神戸大学大学院人文学研究科社会動態専攻・言語学コースに在籍している方です。モンゴル語は母音調和のある言語として知られています。このような言語に英語や日本語のような母音調和を持たない言語の単語が受け入れられるときにどのような音韻構造が生じるかという問題についてこの講演会では話していただく予定です。

12月18日の講演会の1週間前の12月11日水曜日には講演会と同じ時間帯にプレ企画として外来語の研究で有名な下記の論文について佐々木が講義を行います。講演・プレ企画とも、「言語情報学講義 05」を履修登録していない学生でも参加可能です。ただし、資料の用意の都合上、12月9日までに電子メールで参加の意思を伝えていただきたいと思います。

プレ企画：最適性理論による外来語研究を知る
テキスト（入手できない場合は連絡先まで相談を）

Ito, Junko and Armin Mester (1995) The core-periphery structure of the lexicon and constraints on reranking, *University of Massachusetts Occasional Papers 18: Papers in Optimality Theory*, 181-209.

日時：2019年12月11日水曜日 16時20分～17時50分

場所：立命館大学衣笠キャンパス創思館 403

連絡先：k-sasaki@fc.ritsumei.ac.jp（佐々木冠）